

振武

よく噛み、よく話し、よく笑おう

発行元：
一般財団法人
熊本公徳会
熊本市中央区
上通町2番31号
びぶれす熊日会館 6階
熊本公徳会武道場
「振武館」7階
電話 096-327-2600
FAX 096-327-5221
ホームページ
〈https://z-kk.org〉

振武館 86周年

熊本公徳会武道場「振武館」は、昭和8年3月、熊本市上通町・鎮西館の広大な敷地の一角に建てられました。「教育学問の真の目的は人格の備わった人間を養成することにある。新たな道場は振武館と名付け、文武の基礎を学び、もって人格を磨くことにある」と、広く青少年や一般に開放されています。

肥後の拠点として親しまれてきました。戦前戦後を通して、全国有数の選手を数多く輩出してきた振武館は、平成14年、びぶれす熊日会館内に近代的道場として生まれ変わりました。

振武館物語 6

あの日に、何が…

6・26水害から5か月後の昭和28年11月23日、熊本市手取本町（現在の中央区上通町）の振武館には200人余りの見学者が詰めかけました。この日、合気道の演武公開が予定され、災害後間もないのに多くの人の姿が道場にありました。

当時、合気道を専門にやっていた人は全国でも数人しかおらず、合気道は珍しい時代。全国各地で開かれた演武公開には、各種の武術経験者が「いったい合気道とは、どういうものか」と見に来る人が多かったといわれます。

午後2時、いよいよ演武開始。この日、合気道を熊本で初めて紹介したのは、合気道の創始者・植芝盛平が設立した日本合気会の指導員だった砂泊誠秀（かんしゅう）氏。砂泊は本名の兼平、6段。砂泊は東京から熊本にやって来て、まだ一般の人々には馴染みのない合気道を、振武館に集まった見学者の目の前で披露。道場内の畳の周りを取り囲んだ人々は、繰り出される技の数々に驚きの目で見入っていました。

翌24日の熊日朝刊に、その様子が紹介されてい

（砂泊）ということ、翌日には内弟子として入門しました。戦時中の昭和17年ごろのことです。

当時、植芝の道場は1人2人と、あちらこちらからやって来ては、すぐ去っていくような状況でした。まだ合気道という言葉もなかったころです。

砂泊は振武館で演武公開をした翌年の昭和29年1月、「合気道を熊本に」という地元からの強い要望を受け、熊本にやって来ました。30歳の時です。

熊本市九品寺の一角に「合気道熊本道場」の看板がかかりました。九州における合気道誕生の曙でした。当初、古い製薬工場を借り、稽古を始めましたが翌年、振武館に

ほぼ近い、手取神社横（旧長安寺町川現水道町）に道場が完成。「合気道万生館道場」（現在の万生館合気道）です。

砂泊は熊本市を中心に、福岡、鹿児島、長崎、宮崎などでも指導。数千人を超す会員が、砂泊のもとで合気道を学びました。昭和36年には、植芝から合気道9段の免除を与えられていました。

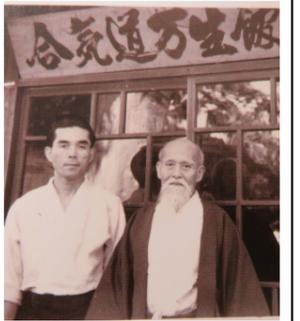
砂泊は植芝盛平の精神面を深く探求。「合気道は愛なり」の愛を技でどう表すか、敵を無くすとは体技としてどのようなことなのか。毎日の稽古のなかで、それらの心の世界を深く追い求め続けました。

道場を開いてから約20年後。砂泊は、やっと「合気道は愛なり」とはこの状態かと、霊肉一体の技の入口にたどり着きました。その時から、万生館の各道場では「合気道の精神」として、「合気道は愛なり」の遺訓を唱和して稽古を始めることになりました。

「すべての争いは、他に勝たねばというところの心から起こる。植芝翁の悟りは、己の心の中の争う心に打ち克つことであつた。万生館合気道の修行も、その点の探究に向かつて毎日、汗を流している」

砂泊は生涯、闘争術と考えられていた武技を、相手と一体に結ぶための武道へと昇華させた植芝の思想を試行錯誤して探究し、広く普及させることに尽くしました。

砂泊が振武館で66年前にまいた「一粒の種」が、今では大木に成長して花を咲かせ、実を結び、各地にその種が芽生えて成長しています。



合気道の開祖・植芝翁と砂泊＝昭和36年。植芝は「九州の技が一番良い」と言った。砂泊は思った。「私の今までの苦しみが報われた」と。



伊東 隆三（歯科医師）

硬いもの食べ、きれいな歯並びに

2年前に「古希」を迎え、まだまだ90歳までは頑張らなければ、という気持ちと、何か健康に役立つスポーツ（武道を）と考えた時に真っ先に頭に浮かんだのは「剣道」でした。

子供のころ心身ともに鍛われたことが、その後の私の人格形成に大きな影響を及ぼし、その結果現在の自分があると感謝しています。

70歳を期し剣道を再開し、私の剣道の師匠である故古荘義廣先生の訓話を思い出しながら、また振武館の荒木幸二師範や川邊五郎師範、それに中嶋隆志教士7段の指導を得て、稽古ができる喜びを感じつつ話を進めたいと思います。

古荘先生もまあお若かつたし、先輩たちとの厳しい稽古で疲れ果てた後に、あと一本、古荘先生に稽古をつけていただくのが習わしでした。ぼくはここに打たれ、「なま」をしこたま打たれ、壁にぶつつけられ、倒れたら体の上にまたがって胸を持ち上げ、首根っこを押さえられる、まさに地獄の稽古でした。

しかしその猛稽古のおかげで、私が松山中学校3年の時に熊本市中体連剣道大会優勝、熊本県中体連剣道大会2位の栄誉をつかむことができました。

その時のメンバーは先鋒・伊東隆三、次鋒・柳田俊秀、中堅・中原之隆、

た。それがメンバーは先鋒・伊東隆三、次鋒・柳田俊秀、中堅・中原之隆、

たくさん蘇（よみがえ）るものの、今では楽しみ昇華し、懐かしい思い出です。

ところで、稽古の後は正座・黙想の後に古荘先生の訓話が常でした。いくつかあげますと、「人生の敗北者になるな。最後は必ず勝利者となれ」「天才は努力の別名である」「己の道は己で切り開け、どんなに険しくとも頂上をめざせ」

また、「まだはもうなり、もうはまだなり」は私が初段に合格した時に古荘先生から戒めの言葉としていただいた言葉です。これは「まだまだ」と思つて努力していると、もうその域に達している」「もう大丈夫、もういいな」と思つた時はまだまだその域には達していない」ということで、初段をもらった、といて慢心するなということでしょう。読者の皆様の参考になれば幸いです。

保育園や幼稚園に健診にいきますと、子供たちの歯並びは方々方々、出っ歯、かみ合わせが深いなど最悪と言つていいと思います。矯正歯科医が健診しますと、将来きれいな歯並びになるだろう、という子供を探すが難しいくらいです。

それはなぜでしょうか？

しっかり噛んでいないために顎の発育が悪いからです。縄文人をお手本に、硬く大きな食べ物を前歯で引きちぎり、奥歯でしっかり噛むと、出っ歯になりやすくなります。きれいな歯並びになります。端正な顔立ちが得られます。

子供たちに、硬いものを食べ、喜びを感じる食習慣を身につけさせましょう。卵かけごはん、お茶づけはおいしいですが時々にはしましょう！よく食べ、よく噛み、よく話し、よく笑おう！これは子供たちにとって、特に子供たちにとって重要なことです。皆さん、縄文人の生活に思いをはせ、自然な食生活を心掛けるようにしましょう！（筆者は熊本市在住。日本矯正歯科学会指導医・専門医）

砂泊は東京から熊本にやって来て、まだ一般の人々には馴染みのない合気道を、振武館に集まった見学者の目の前で披露。道場内の畳の周りを取り囲んだ人々は、繰り出される技の数々に驚きの目で見入っていました。

翌24日の熊日朝刊に、その様子が紹介されてい

砂泊は、振武館で演武公開をした57年後の平成22年11月13日、87歳で死去。合気道の開祖・植芝盛平とともに京都で永遠の眠りについています。

（敬称略）

*「合気道悟道」（砂泊誠秀）、「合気ニューズ」、熊本日日新聞などを参考にしました。

まず、「振武館」との出合いです。私たちが家族は全員カトリック信者で、子供のころから振武館の隣の熊本手取カトリック教会に毎日曜日、礼拝に行っていました。その当時は、振武館が熊本県の武道のメッカであり、毎週日曜日には剣道や柔道の試合や稽古があつていました。気合の入った声が教会にも響き渡り、ミサが終わると石塀のぼり試合や稽古を見ていたものでした。そ

古荘先生もまあお若かつたし、先輩たちとの厳しい稽古で疲れ果てた後に、あと一本、古荘先生に稽古をつけていただくのが習わしでした。ぼくはここに打たれ、「なま」をしこたま打たれ、壁にぶつつけられ、倒れたら体の上にまたがって胸を持ち上げ、首根っこを押さえられる、まさに地獄の稽古でした。

しかしその猛稽古のおかげで、私が松山中学校3年の時に熊本市中体連剣道大会優勝、熊本県中体連剣道大会2位の栄誉をつかむことができました。

副将・続天、大将・今村稔でした。続く、今村くんとは今でも酒を酌み交わし旧交を温めております。72歳になった現在でも、苦しかった思いが

く永久歯がきれいに並び、ないのでは、とお母さん方からよく尋ねられます。これは幼児期からの、軟らかいものの摂取や食習慣が大きく影響しています。

保国園や幼稚園に健診にいきますと、子供たちの歯並びは方々方々、出っ歯、かみ合わせが深いなど最悪と言つていいと思います。矯正歯科医が健診しますと、将来きれいな歯並びになるだろう、という子供を探すが難しいくらいです。

それはなぜでしょうか？

しっかり噛んでいないために顎の発育が悪いからです。縄文人をお手本に、硬く大きな食べ物を前歯で引きちぎり、奥歯でしっかり噛むと、出っ歯になりやすくなります。きれいな歯並びになります。端正な顔立ちが得られます。

子供たちに、硬いものを食べ、喜びを感じる食習慣を身につけさせましょう。卵かけごはん、お茶づけはおいしいですが時々にはしましょう！よく食べ、よく噛み、よく話し、よく笑おう！これは子供たちにとって、特に子供たちにとって重要なことです。皆さん、縄文人の生活に思いをはせ、自然な食生活を心掛けるようにしましょう！（筆者は熊本市在住。日本矯正歯科学会指導医・専門医）

砂泊は東京から熊本にやって来て、まだ一般の人々には馴染みのない合気道を、振武館に集まった見学者の目の前で披露。道場内の畳の周りを取り囲んだ人々は、繰り出される技の数々に驚きの目で見入っていました。

翌24日の熊日朝刊に、その様子が紹介されてい



振武館で合気道の妙技を披露する砂泊（右）＝昭和28年11月23日、熊本日日新聞社提供

砂泊は、振武館で演武公開をした57年後の平成22年11月13日、87歳で死去。合気道の開祖・植芝盛平とともに京都で永遠の眠りについています。

（敬称略）

*「合気道悟道」（砂泊誠秀）、「合気ニューズ」、熊本日日新聞などを参考にしました。